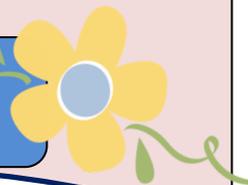


放課後子ども教室

第1回放課後子どもプラン研修会【白河市】



日時) 平成24年8月22日(水)

場所) 白河市立図書館

日程) 10:20~10:30 開会

10:30~12:00 講演 「教育支援者とは？」

東京学芸大学教授 松田恵示

13:00~15:00 分科会(情報交換)

15:00~15:20 まとめ

15:20 閉会

県全体で142名の参加がありました。
松田教授の講演の内容をまとめましたので、参考にしてください。



講演『教育支援者とは？』 東京学芸大学 松田恵示教授

- 子どもの「学び」を大人との関わりで考えると、“ガイド”がいると外側の知らないことを吸収するのに役立つ。この“ガイド”が大人の役割である。
- 大人の役割分担のバランスが崩れている。もう一度バランスを整えようと始まったのが、放課後子ども教室や地域支援本部事業である。
- 子どもの価値観が多様になるのは、地域の方々との関わりによってである。
- 人間関係(社会関係)の3種類として、「他人」:(知らないから関わらない)、「他者」:(知らないけど関わる)、「他己」:(知っているから関わる)がある。「他者」とは、知らないからこそ自分の知らないことを知っている可能性が高い。この他者との関係が最も大切であるが、今の子どもは、これを作るのが苦手である。
- 他者として関わる教育的意味が大きい。やさしさ・厳しさの両方を持った大人が「育成する大人」である。教育支援者のスタンスは、他者として関わること。
- 大人から見て、子どもも「他者」である。子どもの感受性・想像力を受けて、私たち大人も成長する。
- 「つながり」とは「見方の違う人たち」が一緒にやっていくこと。
- 自分が安定するために、他者からの反応=つながりが不可欠である。
- 自分自身を振り返ることが大切である。トラブルには余裕を持つことが必要。
- 遊びの3条件は、「間」「心の動き」「安心感(遊戯関係)」である。「遊び」は「他者」がいないと成立しない。「遊び」は他者と自己がおりなす「1つの世界」である。

※ 大人の関わり方の大切さ、遊びの本質について理解を深めることができました。

第2回子どもプラン研修は、12月1日(土)郡山で予定しています。

